

■学校経営のポイント

学校の教育目標を再検討する

小島 宏

現在、次期教育課程の基準や学習指導要領の改訂に向け、グローバル社会に生きる児童生徒の教育、21世紀型能力の育成、教科や領域の再編成など、教育の制度や目標、内容の再構築、アクティブ・ラーニングなど指導・学習の改善等が論議されている。

そこで、児童生徒の教育を直接担っている学校にあっては、これらの動向を踏まえ、学校の教育目標について、理念や内容等を再確認・再検討する必要がある。時期早尚との意見もあろうが、教育改革と並行してじっくり進め、俄か作りにならないようにしたい。あくまでも、参考として、A、B、C3小学校の過去（平成10年、20年頃）の教育目標の再検討と改訂の取り組みを紹介する。

教育目標の変遷

一般的には、学制発布時の校訓「愛、正、剛」、大正時代の訓育の重点「規律、姿勢、清潔、礼儀」、児童心得大綱「正直なること、勤勉なること、規律を守ること、親切なること、礼儀正しくすること」、昭和時代（1945年以前）の校訓「協同、誠、勤勉、剛健」「正しく、強く、美しく、親しく、朗らかに」等を経て、現在の学校の教育目標「やさしく、かしこく、たくましく」「良さを生かし共に生きる子、進んで考えやりぬく子、体をきたえ元気な子」と育てたい児童像は平易な表現に変化してきた。

A小学校の改訂の進め方

A小学校の目指す児童像は、「自分も友達も大切に
する子、よく考えて実行する子、清く明るい子、やさしく強い子、協力して責任を果たす子」で、これを「明るい子、考える子、強い子」と要約したものが平成10年までの教育目標である。

そこで、教育課程の基準の改訂や社会の変化、教職員や保護者等の願いも踏まえ、教育目標を見直すことにした。現在の児童の良い所や課題、不足して

いること、今後重視していくべき事柄などを捉えるために、教職員、保護者PTA・地域住民、高学年児童を対象にアンケート調査をした。

その結果、理念は継続し、内容を具体的にし、表現を平易にして「明るく思いやりのある子、深く考える子、強くたくましい子」と改訂した。

B小学校の再確認の進め方

B小学校の教育目標は、「すなおな子（基底）、よく考える子（知）、なかのよい子（徳）、たくましい子（体）」であった。

平成20年、教職員、旧教職員、保護者PTA・地域住民、同窓会に「どのような子どもに育てたいか」「今後大事にしたいこと」等のアンケートを実施した。学校が主体性を発揮して、アンケート結果を基に案1、案2、案3（現行）を作成し、どれにするか再度アンケートを実施した結果、現行のものを引き続き教育目標とすることとなった。

C小学校の大改訂の進め方

C小学校は、教育理念「人間尊重の精神に基づき、教育基本法に示された教育の目標を達成するために、一人一人の個性・能力を発揮し、豊かな心を持ち、そしてたくましく生きる児童を育成する」を、児童にも分かるように具体的かつ平易な表現にした実質的な「心のやさしい元気な子、よく考え力いっぱいやりぬく子、力を合わせ進んでする子、きまりを守る明るい子」を教育目標としてきた。

これを、平成12年に、教職員、保護者会、PTA諸会合、学校運営協議会等の意見を勘案するも校長の強いリーダーシップのもと「自分大好き、友だち大好き、学校大好き、〇〇の子」（〇〇は校名）と、親しみやすいものに大改訂した。

（こじま・ひろし＝一般財団法人教育調査研究所研究部長）

●校長のスケジュール管理から学校マネジメントまでを1冊で完全網羅！ 《最新刊》

2015 スクール・マネジメント・ノート

【監修】小島宏／【企画・制作】教育開発研究所 A5判・300頁／定価（本体2,200円）＋税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、無料FAX 0120-462-488 をご利用ください（24時間受付・即日発送）